（別紙２－４）

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　　総括表

法人名	医療法人社団　松涛会	代表者	斎藤　正樹
事業所名	小規模多機能 ケアタウン江の浦	管理者	中島　一圭

法人・事業所の特徴	家庭的な環境を作り安心、安全な日常生活を送れるよう支援している。行事、外出支援も充実している。敷地内には内科があり、往診や緊急時の受診で適切な医療が受けられ安心した生活を送る事が出来る。本人家族の希望があれば、最後まで施設での看取りも行う。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	1人	1人	人	4人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	スタッフ全員で利用者の情報共有や生きがい支援等具体的な計画を立てた。それを１つずつ実践していけるように事業者全体をレベルアップさせる。	情報共有する為のノートを用意したが、ほとんど活用されなかった。個別の職員ごとが持っている情報は多々あるが、集約出来ずに、共有される事はなかった。	事業所で普段行われてる介護の状況までは分からないが、写真があるので、行事やレクリエーションでの楽しそうな様子はよく分かる。	昨年度の改善計画が達成出来なかったので、今回も同様な計画とする。情報の集約・共有を行い、各利用者に適した介護を行うようにしていく。
B．事業所のしつらえ・環境	家族の来所や見学に来られた方に対し、元気にあいさつ、笑顔で接する事を継続し今以上に入りやすく声を掛けやすい開かれた事業所を目指す。	家族、近隣の方に対する挨拶はよく出来たと思う。入りやすさもあり、近隣の方とは、うまく付き合えていると思う。この状態を維持していく。	新しく有料老人ホームが併設で作られた際に地域で注目を集めていた。とのこと。期待に応えれる事業所であり続けてほしい。	施設内の季節感を出す飾りつけのレベルは年々向上しているので、このまま更なるレベルアップしていく。
C．事業所と地域のかかわり	夏祭り等の行事に地域の方を招待、参加して頂き馴染みの関係をより一層深める。	行事はしっかりと行っている。しかし、家族の方の参加は多いが、地域の方の招待や来所には至っていない。	利用者の方の外出が年々難しくなってきているとのことなので、職員の方が地域行事に参加の機会を増やすといいと思う。	夏祭り等の行事を行う際に、町内の回覧板に記載させてもらい、認知度を高めて、参加も促していく。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	小学校や幼稚園の帰りの時間を把握して見守り隊を定期的に行なっていく。地域のイベントや行事に職員、利用者共に１つでも多く参加する。	見守り隊は全く出来なかった。決まった時間に、利用者の方を外に出てもらう事は難しかった。地域のイベント等には、ある程度決まったメンバーだが、参加は出来た。	写真で見ると色々な行事に参加しているのが分かる。皆さん、いい笑顔である。大変だと思うが続けていってほしいと思う。	利用者の方の歩行能力の低下が進んできている。こちら出ていくのも大事であるが、現状を考えると、事業所に来てもらう形の交流も一つの手段である。
E．運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議のメンバーで困っている地域の方に対し出来る事、必要なサービスを検討し協働して取り組んでいく。	会議で出た内容に対して、全て取り組んでいけたとは言えない。案は出ても実行力に乏しいというのが現状である。	この事業所（有料老人ホームを含む）に関心を持たれている方は、かなりいる。この会議を利用して情報を伝えていきたい。	情報の交換は、事業所にとって有意義なものである。今まで以上に、情報の活用を行っていく。
F．事業所の防災・災害対策	事業所の防災訓練に地域の方に参加してもらい、消火器の使用法や簡易担架の作り方等実技も行なって行く。	防災訓練に地域の方の参加はなかった。事前の告知が遅くなったり、声を掛けている数が少なく参加の促しがうまくいかなかった。	立地が地域の中では高い場所にある。水害の際にはいい避難場所になる。その際には、お願いしたい。	年に２回の避難訓練に、如何に地域の方の参加を促せるかを考え、実行していく。